

2020.7.17 よみがえれ!新町紡績所の会メッセージ

新型コロナ・ウイルスの感染が世界に広まり、その終息の見通しがたちません。「よみがえれ!新町紡績所の会」会員の皆様の息災を心から祈念いたします。

2005(平成 17)年に本会が設立されてから早いもので 15 年になります。その間に、新町屑糸紡績所の世界遺産化には今少し時間がかかることがわかりました。その訳は、2008(平成 20)年に経済産業省の近代化産業遺産、2015(平成 27)年に国の重要文化財と国の史跡に指定され世界遺産の対象となる新町屑糸紡績所の建物を所有者のクラシエホールディングス(株)が食品の生産工場として今後も使用することにあります。それは、言い換えますと、少なくとも当面はクラシエが日本初の使用しながら遺す世界遺産を目指す方針にあるということです。その方針に沿って、クラシエは建物の保存のための修理も行っています。そのあたりの事情のご理解をいただきたくお願い申し上げます。

では、いつ世界遺産となるのでしょうか。それは、ひとえにクラシエの判断次第です。恐らくそれを決める要因は、旧カネボウの一部を後継した新生クラシエの企業としての業績によるものと思われます。皆さまもお気づきかと思いますが、最近テレビでクラシエのコマーシャルを数多く目にするようになりました。それが私どもの願う方向に沿うものであって欲しいと念願するばかりです。

私どもの新町屑糸紡績所に対する当初の関心は、皆様よくご存知のように、トラス(三角形)を用いた柱の組み方、和釘の使用、四角形のボルト、木鼻といった建物の構造に向けられていました。

しかし、次第に新町屑糸紡績所が新町という地域づくりや郷土の発展にどんな影響を与えたのか、あるいは寄与したのかといったことに移りました。会員有志によるそれについての「出前」授業が年に 1 度新町第 1、第 2 小学校や新町中学校の生徒に行われています。子供向けのテキストも用意し、3 校に提供しました。この活動は、将来地域を担う人材の育成や地域振興という観点からとても重要ですので、今後も継続したいと考えます。

またこれからしばらくの間は、新町屑糸紡績所についての歴史的経緯や意義などについて以下の順で勉強したいと考えます。

- ① 新町屑糸紡績所について考えるしっかりした予備知識を身に着けるために、明治の初めから大正期、あるいは昭和初期あたりまでのわが国の生糸の生産や繊維産業の歴史、特質、意義などを幅広く学ぶ。
- ② 日本の殖産興業の推進役であるとともに、新町屑糸紡績所設置の中心的役割を果たした内務省について学ぶ。
- ③ その上で富岡製糸場が設置された 1872(明治 5)年から 1877(明治 10)年の新町屑糸紡績所の設置に至る 5 年間に、私たちの想像をはるかに超える壮大なドラマが明治新

政府の手によって展開されましたので、その実態について学ぶ。

- ④ その結果新町屑糸紡績所が設置に至ったこと、その意義、果たした役割、繊維産業の中で占めた位置、そして重要性などについて学ぶ。

以上の勉強の目的の 1 つは、明治新政府が他に類例のないことですが、総力を挙げて取り組んだ文明開化早期実現とヨーロッパの先進技術の導入を意図した 1871(明治 4)年からの 1 年 11 ヶ月間にわたるいわゆる岩倉遣米欧使節団の派遣と 1873(明治 6)年のウィーン万国博覧会への参加という共通の目的を持った 2 つの国家プロジェクトと新町屑糸紡績所設置の関係を理解することにあります。

本国家プロジェクトの重要性は、芳賀徹の*「世界史上にも珍しい異文明総合研究の冒険集団」という評価や岩倉使節団が横浜港を出港する時に太政大臣であった三条実美から「使節ノ能否ハ国ノ栄辱ニ係ル……外交内治、前途ノ大業、其成其否実ニ此挙ニ在リ……行ケヤ海ニ火輪ヲ転ジ、陸ニ汽車ヲ輾ラシ、万里馳駆、英名ヲ四方ニ宣揚シ、無恙帰朝ヲ祈ル」との真に的を射た送別の辞を紹介すれば十分かと思います。

特命全権大使である岩倉具視の次の地位の副使に任ぜられた大久保利通は、イギリス訪問中にマニンガム村でリスターという経営者の技術革新によって初めて可能となった屑糸紡績所の存在を知りました。

それに岩倉使節団一行は皆衝撃を受けました。しかし、とりわけ大久保の受けた衝撃と屈辱感には大きなものがありました。理由は、日本では残念なことに屑繭が真綿程度しか用途が見いだせないでいること、そのために、リスターの工場では原料の屑繭をただ同然の安値で日本と中国から輸入出来ること、その屑繭をリサイクルする形で再利用し、見事に高価な短繊維の絹糸として製品化していること、日本にその技術を移植し、国内に沢山ある屑繭を原料とする紡績絹糸を生産出来れば、絹製品や茶と並ぶ有力な外貨獲得の手段を手に入れられることにありました。

大久保は、帰国後直ちに殖産興業、とりわけ繊維産業を推進するとの固い決意のもとに内務省を新設し、自ら内務卿(今日でいう首相)に就任しました。大久保は内務省新設の目的を達成するために必要な人材を岩倉使節団の参加者とウィーン万博に参加し、万博閉幕後にヨーロッパ各地で養蚕や近代的工場について学んできた者の中から集めました。その中には、新町屑糸紡績所設置に功績を残し初代所長に就任することになる佐々木長淳や大規模な近代的機械工場建設の中心人物となる山添喜三郎らがいます。

そうした人物の存在のおかげで、新町屑糸紡績所は、日本人主導による本格的な近代的機械工場の象徴という意義を持つことになります。そういう意味で、明治新政府による新町屑糸紡績所の設置は、殖産興業策の金字塔と評価されることにもなります。

大久保利通は、新町屑糸紡績所の設置にあたっては、質実剛健に作るようにとの指示を出しています。それは、政府に財政上の余裕がなかったことに加え、殖産興業を推進するために本格的な近代的機械工場の普及版モデルを想定していたことによります。また近い

将来に民間へ払い下げること想定していました。

ですから榛名山から切り出された木材を主に用いた地味な木造建築(レンガの建物は主に明治30年代に作られたものです)の工場となっています。従って、煉瓦造りの富岡製糸場のように訪れる人々を圧倒するような威容を誇るものでなく、また日本人主導で建設した本格的な大規模近代機械工場ですから外国人館ありません。遺憾ながら素人目には観光資源として注目されるというほどの魅力ある建物でもありません。傍目から遺産として残す価値があるのかいぶかる人もいます。ただ木造の建物が往時の面影そのままに、雨風にさらされつつ148年(2020年現在)の時を静かに刻んでいるだけです。

しかし、一見人を引き付けるだけの魅力に欠けるという事実が逆に新町屑糸紡績所の価値や意義を物語っています。それは、米欧を視察してきた大久保を中心とする政府関係者の設置に対する強い意志とウィーン万博に参加し、その後もヨーロッパで養蚕や西欧建築などについて研修してきた日本人技術者の熱い思いが一つとなって初めて実現可能となった日本人主導による本格的な大規模近代機械工場の象徴であり、日本近代化のためのモデル工場でもあることです。もう一つ、欧米以外の国である日本が先陣となって近代化に成功した鍵をも秘めていることです。それだけに私どもが勉強することも山とあります。

1877年の新町屑糸紡績所の開業式典には、大久保利通、大隈重信、伊藤博文、松方正義、前島密といった明治政府のお歴々が居並びました。翌1878(明治11)年には明治天皇の行幸を仰ぎ、それには岩倉具視も同行しました。さらに1879(明治12)年には英照皇太后の行啓も仰ぎました。これほどの要人が訪れた工場や施設等を他に見出すことが出来ません。

勉強のもう一つの目的は、繊維産業界の発展に新町屑糸紡績所が占めた位置、果たした役割、そして賃金、労働環境、福利厚生、教育、寄宿舎の整備など紡績所に集った人々の仕事や生活振りにについても明らかにすることにあります。現在、高崎市教育委員会が旧女子寄宿舎跡地の発掘作業を進めています。歯ブラシ、櫛、皿や茶器の破片、化粧瓶といった生活用品も見つかっています。それも私たちの勉強の大きな刺激になると思います。

以上、長くなりましたが、質素な外観と異なり、有意義な価値と歴史的ロマンに満ちた新町屑糸紡績所の保存そして世界遺産化のために息の長いご協力をお願い申し上げます。

なお、最初のご挨拶の中でも触れましたように、私どもはコロナ・ウイルスの感染拡大の最中におります。終息の見通しも立ちません。そうした時であればこそ、新町屑糸紡績所と同紡績所をめぐる歴史、その周辺の諸事項について学んでおく好機と考えます。

なお私どもの会が、従来からの活動に加えて月に一度のペースで勉強会を開催しています。会員の皆様には頭の体操も兼ねて気楽に勉強会に参加していただき、思うところ、思い出、エピソードなどがありましたら、話していただけますと幸いです。勉強会の日程や時間などは、新町商工会内の事務局にお尋ね下さい。お待ちしております。

*芳賀徹『岩倉使節団の西洋見聞～「米欧回覧実記」を読む～』日本放送出版協会、1990年、4頁。